

『問答語』の漢語語彙(4)

竹越 孝

(承前)

8. 副詞

8.1 程度

8.1.1 強度

“太”

“太”は1例用いられており，“太～了”的形を取る。

満洲語では副詞 jaci (甚だ, 頗る) が対応する。

- (1) 你太仔細了 (12a5) ⟨jaci⟩

“狠”

“狠”は10例用いられており, うち9例が副詞としての用法, 1例が動詞に後続して補語となる用法である。

満洲語では, 補語となった場合に副詞 mujakū (実に, 極めて) が対応する以外は, すべて副詞 umesi (甚だ, 頗る) が対応する。

- (1) 狠熱 (4b4) ⟨umesi⟩
(2) 師傅誇狠了 (7a3) ⟨mujakū⟩
(3) 狠合指頭 (17a3) ⟨umesi⟩
(4) 狠利害 (20a2) ⟨umesi⟩

8.2 時間

8.2.1 過去

“從來”

“從來”は1例用いられている。

満洲語では副詞 asuru (あまり, ほとんど) が対応しているように見えるが, “從來”の意味とはずれがある。

- (1) 從來不會托落 (17a3) ⟨asuru⟩

“纔”

“纔”は9例用いられている。

満洲語ではすべての例で副詞 teni (さっき, やつと) が対応する。

- (1) 纔三里 (4b3) ⟨teni⟩
- (2) 纔是 (5a4) ⟨teni⟩
- (3) 纔來的麼 (6b6) ⟨teni⟩
- (4) 纔可以射得 (18a4) ⟨teni⟩

8.2.2 現在

“現在”

“現在”は1例用いられているが、存在していることの強調ではなく、今、現在の意味と思われる。

満洲語では名詞 ne (今, 現在) が対応する。

- (1) 現在看不得 (15b2) ⟨ne⟩

8.2.3 不定期

“常”

“常”は2例用いられている。

満洲語ではいずれも副詞 kemuni (常に, なお) が対応する。

- (1) 常聽見 (10b6) ⟨kemuni⟩
- (2) 常思己過 (14b1) ⟨kemuni⟩

“暫且”

“暫且”は1例用いられている。

満洲語では副詞 taka (しばらく, 暫時) が対応する。

- (1) 暫且等一等 (13a6) ⟨taka⟩

8.2.4 不変

“還”

“還”は6例用いられており、うち“沒”が後続する“還沒”の形が4例である。

満洲語では、“還沒”の4例がいずれも未来連体形 -ra/re/ro に後続する後置詞 unde (まだ～しない, ～するのはまだだ) に対応するほか、副詞 kemuni (まだ, なお) に対応するものが3例ある。

- (1) 還早呢 (4a1) ⟨kemuni⟩
- (2) 還沒呢 (4a3) ⟨unde⟩

- (3) 時候還沒到 (11b4) 〈isinara unde〉
 (4) 還沒傳呢 (18a1) 〈kemuni selgiyere unde〉

上の (4) は両者が重なっていると見るべきである。

8.2.5 重複

“又”

“又”は3例用いられている。

満洲語では、副詞 *geli* (また, なお) に対応するものが2例、動詞 *bi* (ある, いる) の不定形 *bime* (～であって, ～でいて) に対応するものが1例ある。

- (1) 又不會寫 (3a5) 〈geli〉
 (2) 又甜 (11b2) 〈jancuhūn bime〉

“再”

“再”は1例用いられている。

満洲語では副詞 *jai* (再び, また) が対応する。

- (1) 再來罷 (3b6) 〈jai〉

8.3 範囲

8.3.1 単独

“只”

“只”は1例用いられている。“只”に動詞の“有”が後続する形であり，“只有”で一語ではない。

特に副詞としての“只”に対応する満洲語は見られない。

- (1) 只有這個能耐麼 (8a4) 〈hūman ereo〉

上の例は「(お前の) 腕前はこれが」の意味になる。

“只是”

“只是”は5例用いられている。

満洲語では、副詞 *emdubei* (ひたすら, ただ) に対応するものが4例、*damu* (ただ, わざかに) に対応するものが1例である。

- (1) 只是打閃 (12b3) 〈emdubei〉
 (2) 只是代累人 (14a1) 〈emdubei〉
 (3) 咱們只是 (14b3) 〈damu〉

上の (3) は副詞“只”に動詞“是”が後続した形と見ることもできる。

8.3.2 相互

“相”

“相”は1例用いられている。

特に副詞としての“相”に対応する満洲語は見られない。

- (1) 管我們什麼相干 (3b3) ⟨ai dalji⟩

上の例は「何の関わり（があるか）」の意である。

8.3.3 統括

“都”

“都”は4例用いられており、うち“是”が後続する形が2例である。

満洲語はいずれも副詞 gemu (みな、すべて) が対応する。

- (1) 都像你麼 (3a2) ⟨gemu⟩
(2) 都是好心 (3a6) ⟨gemu⟩
(3) 都去了 (4a2) ⟨gemu⟩

“也”

“也”は11例用いられている。

満洲語では inu (また、～も) に対応するものが7例、geli (また、その上) に対応するものが2例あるほか、明確な対応語彙がないものも2例ある。

- (1) 書也不會 (3a3) ⟨inu⟩
(2) 一個人也沒有 (4a5) ⟨inu⟩
(3) 也好罷咧 (10a3) ⟨inu⟩
(4) 賴怠臭也有呢 (16a4) ⟨geli⟩
(5) 不學也使得麼 (21b6) ⟨geli⟩
(6) 買也買不着 (6b5) ⟨udaci baharakū⟩
(7) 鐵也錆了 (9a2) ⟨sele sebdenehebi⟩

上の(6)は「買うことができない」、(7)は「鉄がさびついている」の意味になる。

“總”

“總”は1例用いられているが、“總而言之”の固定フレーズである。

満洲語では、疑問詞 ai に ombi (なる、できる) の逆接形が接尾した ai ocibe (何にせよ、いずれにしても) が対応する。

- (1) 總而言之 (16a4) <ai ocibe>

8.4 情態

8.4.1 真確

“必定”

“必定”は2例用いられている。

満洲語ではいずれも副詞 urunakū (必ず, 決まって) が対応する。

- (1) 必定往大堤上去 (19a6) <urunakū>

“一定”

“一定”は1例用いられている。

満洲語では toktombi (定まる, 定着する) の先行形が副詞化した toktofi (定めし, 決まって) が対応する。

- (1) 一定射馬箭 (19a1) <toktofi>

“定”

副詞としての“定”は1例用いられている。

満洲語では副詞 murtei (必ず, 決まって) が対応する。

- (1) 定會翻 (18a5) <murtei>

8.4.2 趨勢

“自然”

“自然”は1例用いられている。

満洲語では、三人称代名詞の属格形 ini に形容詞 cisui (自らの, 独自の) が後続した ini cisui (自然に, おのづから) が対応する。

- (1) 自然顯露 (16b5) <ini cisui>

8.4.3 相反

“反倒”

“反倒”は1例用いられている。

満洲語では副詞 elemangga (かえって, 反対に) が対応する。

- (1) 反倒耽悞 (13b3) <elemangga>

“可”

副詞としての“可”は2例、いずれも“可不是什麼”的形を取る。

満洲語では、形容詞・名詞 inu (その通りだ、是) に助詞 ya (<Chin. 呀?) が後続するものが 1 例、ohoci が後続するものが 1 例である。後者は、ombi の過去形 oho に奪格語尾が付されたものと分析できるが、その意味するところは未詳。

- (1) 可不是什麼 (2a3) 〈inu ya〉
- (2) 可不是什麼 (21b1) 〈inu ohoci〉

8.4.4 推測

“或是”

“或是”は 4 例用いられている。

満洲語では、副詞 eici (あるいは、それとも) に対応するものが 3 例、ほぼそれと同義と思われる embici に対応するものが 1 例である。

- (1) 或是 (10a2) 〈eici〉
- (2) 或是 (9b5) 〈embici〉

上の (2) は単独で用いられた場合である。

8.5 否定

8.5.1 古代語

“莫”

禁止を表す“莫”が 1 例用いられている。

満洲語では、後ろに動詞の未来連体形 -ra/re/ro を伴う副詞 ume (～するなかれ、決して～するな) が対応する。

- (1) 莫論他非 (14b2) 〈ume〉

8.5.2 現代語

“不是”

“不是”は 9 例用いられており、うち“不是的”の形が 2 例ある。

満洲語では、いずれも形容詞・名詞 waka (～でない、非) が対応する。

- (1) 不是那樣 (6a5) 〈waka〉
- (2) 你不是我對手 (7b6) 〈waka〉
- (3) 不是頑的 (10a5) 〈waka〉
- (4) 不是的罷咧 (8a6) 〈waka〉
- (5) 不是的 (11a5) 〈waka〉

“沒”

“没”は14例用いられており、うち名詞性の成分が後続する“没+N”的形が7例、動詞性の成分が後続する“没+V”的形が7例（“没”が単独で用いられる1例を含む）である。後者のうち4例は“還没+V”的形を取る。

満洲語では、“没+N”的7例がほぼ否定詞 *akū* に対応する。

- (1) 没事 (1b6) ⟨*akū*⟩
- (2) 没様兒 (4b6) ⟨*akū*⟩
- (3) 没臉面 (3a2) ⟨*derakū*⟩
- (4) 好没禮 (5a6) ⟨*dorakū*⟩

上の(3)は *dere akū*、(4)は *doro akū* の縮約によって生じた形と見ることができる。

“没+V”的7例のうち、“還没+V”的4例は前述のように動詞の未来連体形 *-ra/re/ro* に後置詞 *unde* が後続した形に対応する。それ以外の3例は、いずれも動詞過去連体形の否定形式 *-hakū/hekū* に対応する。

- (5) 爲何没見你 (2a2) ⟨*sabuhakū*⟩
- (6) 一個蹬兒没打 (7a3) ⟨*tanjahakū*⟩

“没有”

“没有”は5例用いられており、うち2例は動詞が後続する“没有+V”的形を取る。

満洲語では、“没有+V”的2例に動詞過去連体形の否定形式 *-hakū/hekū* が対応し、他の3例は否定詞 *akū* が対応する。

- (1) 没有喝 (1b3) ⟨*omihakū*⟩
- (2) 一個人也没有 (4a5) ⟨*akū*⟩
- (3) 没有就是墩子 (10a2) ⟨*akūci*⟩

“別”

禁止を表す“別”は2例用いられている。

満洲語では、いずれも後ろに動詞の未来連体形 *-ra/re/ro* を伴う副詞 *ume* が対応する。

- (1) 別等我 (18b5) ⟨*ume*⟩

“別要”

禁止を表す“別要”は2例用いられている。

満洲語では、いずれも後ろに動詞の未来連体形 *-ra/re/ro* を伴う副詞 *ume*

が対応する。

(1) 別要哄我 (20b5) 〈ume〉

(待続)